

香港における英語名と中国名の使い分けと香港人アイデンティティ

The Replacement of English names with Chinese names and the Hong Kong Sense of Identity

中 村 俊 哉

Shunya Nakamura

福岡教育大学

(2000年9月11日受理)

返還後の香港では、日常的に使う広東音の名前（広東名）の他、英語名、さらに北京音の名前（北京名）の使い分けが存在する。25の異なる場面において、名前を一貫して使うか、使い分けるかでタイプ分けを行い、また、各場面の抵抗感の因子分析から「大陸人の前」「生活手続き場面」「親族場面」などの因子を抽出した。英語名の付け方、香港人／中国人アイデンティティ、中国／西欧文化、中国の歴史知識、利益選択などの要因が、これらの使い分けタイプ、場面抵抗感に対してどのように影響しているのかを検討した。名前の使い分けは、これらの要因が複合的に関連して起こっていることを明らかにした。

キーワード 英語名 使い分け 状況対応性 香港人 文化変容

問題

1 英語名の文脈

東アジアでは、いくつかの西欧化、欧米化とされる現象がある。それは、キリスト教に代表される宗教文化、英語教育に代表される言語文化、香港、シンガポール、台湾などにみられる英語名や、スカート、ジーンズ、茶髪・ピアスなどのファッションがある。

本論文でとり上げる英語名は、香港やシンガポールで好んで使われ、また欧米に移住した華人、アジア人が自らを欧米に適應させるために使う名前である。英語名を使っている人にその意図を聴いてみると、「気軽に使っているにすぎない」、「言いやすく使いやすい」、「英語名を使うと対等な感じがする」といった回答が多い。ある香港からの留学生によると、日本人よりも中国人の方がより英語名を付ける理由は、「中国語の名前は欧米人にとって聞き取りにくく、発音もできない。より使いやすい名前でないといけないため」という。一方でこれらの地域においても英語名を名乗ることを禁止している家庭が存在する（中村1998）。

香港における英語名は、いくつかの学術書では、端的に西欧化の現れであるとされ、それ以上の考察はない（沢田1994, 日野1997）。一方で心理学の分野では、言語の切り替えについていくつかの

研究にとり上げられているが、調和志向と差異化志向（Chiu, C. Y., & Hong, Y. Y. 1998）のように、個人の心理特性により説明する傾向がある。しかし、これらの文化行動は個人の特性を超えて広い意味の西洋化やアイデンティティの脈絡と関係するのではないだろうか。もちろん英語名や英語使用の文化的行動には、その個人の生育環境の中での西欧文化との近さが関係するであろう。しかし、地域全体がこれらの志向性を持っているのである。その人々の、一般法則化しえないような、歴史的に固有の地域アイデンティティが影響していると思われる。英語名の現象を、意味の脈絡から明らかにするような文化心理学的研究が必要である。

2 アイデンティティ論と文化心理学

英語名の文化行動の心理学的研究にとって、エスニック・アイデンティティの議論は重要である。この30年間ほどのエスニック・アイデンティティの議論において、エスニック・アイデンティティには意志による自己選択が含まれることが指摘されるようになってきた。Patterson (1974) はいわばエスニシティ利益説により、エスニック・アイデンティティの選択において、利益の要因が働くことを指摘した。例えば、エスニックグループに所属することで、政府による様々な権利擁護、支援が受けられる場合もあるし、誇りや自信も生じる。

また、文化の変容に関する議論においては、中長期的な心的過程の変化への関心が高まり、文化心理学や進化心理学の考え方が有力になってきた。山岸 (1997)、長谷川 (1997) の進化ゲーム説のように、有利な選択 (有利な心的特性、行動原理の選択) という要因が、文化の変容に大きな影響を及ぼすことが指摘されている。同じように、ある文化の選択において (ここでは、英語名の選択において)、何らかの利益、何らかの自己選択が関係しているのではないか。

3 英語名と中国名の切り替え

植民地の期間が長い香港では、英国人にあわせて英語名が広く使われてきた。一方で、香港華人の間では、漢字名の広東音読みが平行して用いられてきた。一方で、中国や海外華人の間での共通語の基盤となっている北京語の音で名乗る名前 (以下北京名) は、香港では植民地時代ほとんど用いられてこなかった。

中村 (1998) は、シンガポールや台湾においては「現地音」 (例えば陳ならタンという福建音、チャンという広東音) と「北京語中央音」 (チェンという北京音) との切り替え現象があることを示した。返還直後の香港では、自分の名前を名乗るときに、3通りがあり得る。広東名 (中国語の名前の広東音発音)、英語名 (英米風のファーストネームと中国語広東音のファミリーネーム)、北京名 (中国語の名前の北京普通話音読み) である。これらを、場面に関わらず一貫させている人と、場面ごとに変えている人が見られるはずである。

4 本研究の目的

以下、本研究では香港 (1997年の中国に返還された半年後の香港) における、英語名と広東名、北京名の名乗り方の現状と、その選択の背景となる要因について明確にすることを目的とする。その際に、日本における在日朝鮮人の名前の切り替え現象の研究で指摘されていることを受け、それらが同じように証明されるかどうかを見るとともに、二つの切り替え現象の異同を論じたい。

日本における名前の文脈による切り替えの現象は、在日外国人だけではない。江戸時代までは、一人の人が多くの字、通名を持っていたこともあり、場面によって使い分けていたことが知られている。現在においては、在日外国人の名前の切り替えについては、任 (1991) が、多くの在日韓国人が「日本音読み本名」と「日本的通名」との使い分けを示した。平、川本、慎、中村 (1995) は、「ハングル名」 (本名のハングル音読み)、「本名

の日本音読み」、「通名」 (日本的な氏名) の、19の場面における「使い分け」を調査し、ハングル名、本名で一貫している群と、通名と名前を使い分けている群を分けた。また、ハングル名、本名を用いる群は、朝鮮の地理や文化の知識、日常文化経験 (家にコチジャンがあつたり、家族がチマチョゴリを着るなど) が高いことを見いだした。平らは、名前を名乗ることとエスニック・アイデンティティとをほぼ同一視して論じる。また、一般的なアイデンティティ (加藤, 1983) と名前の使い分けやエスニック・アイデンティティの使い分けとは、関係がないとした。

本研究の香港における名前の使い方においても、このように場面によって名前を使い分けたり一貫させるのであろうか。そして、個人によって名乗り方のタイプの違いがあるのならば、それらを規定するのは、その人の環境の文化であるのか、意志による選択 (利益による選択) であるのか、地域アイデンティティであるのか、地理や歴史の知識であるのかを明らかにしたい。

方法

質問紙による調査 英語版と中文版 (香港で一般に使われている中文) のどちらかを選択してもらう。

質問紙の調査内容

- 1 場面による英語名、広東名、北京名の使い分け (25の場面で、どの名前を使うかの選択)
- 2 場面による英語名、北京名への抵抗感 (25の場面で英語名 (北京名) を使うとき、どれくらい抵抗感を感じるか、5件法)
- 3 香港人／中国人アイデンティティ (香港人、香港人第一中国人第二、中国人第一香港人第二、中国人、その他の5選択)
- 4 対象者の民族、両親の出身背景、移民経験などの情報
- 5 日常的欧米／中国文化経験
- 6 中国の地理・歴史関係の知識、北京語学習意欲、カナダ・オーストラリアへの移民意欲等
- 7 同一性地位に関する質問項目

調査実施方法

在香港の外資系企業での実施 23名 香港の大学での実施 116名

調査時期

外資系企業での調査は、1997年11月-12月に行い、郵送法で回収。大学での調査は、同年12月に一般教養の授業を利用して一斉法で実施。

結果

A) 名前の使い分けと抵抗感

1 英語名, 広東名, 北京名の使い分け／一貫

表1では、縦軸は25の場面をその内容から、西洋人との場面、仕事・友人の場面、日常生活、外国人との場面、親族場面、北京語を話す人との場面の6つのまとまりに分けた。横軸は英語名, 広東名, 北京名の名前使用の比率である。確かに場面により英語名, 広東名, 北京名を使い分ける人が存在し、西洋人との場面や仕事, 友人場面では英語名を使う人が多く、生活上の手続きの場面では広東名を使う人が増え、中国から来た人と居る場面では北京名が、さらに父親・親族という場面で広東名が多くなるのが特徴である。

表1 25場面での英語名, 広東名, 北京名の使用割合(%)と英語名, 北京名への抵抗感(平均)
A 英語名 B 広東名 C 北京名 英語名 S D 北京名 S D

1 西洋人との場面									
欧米人の親友と	90.6	7.9	1.4	1.28	0.50	3.05	1.23		
大学・職場で最初にあった欧米人	89.1	9.4	1.4	1.42	0.97	3.06	1.24		
香港人と欧米人友人がともにいる時	84.1	15.2	0.7	1.39	0.59	3.03	1.15		
英国系, 米国系企業に勤めるとき	71.7	26.8	1.4	1.38	0.57	3.22	1.19		
2 仕事, 友人の場面									
クリスマスに会った異性(両言語)	86.2	13.0	0.7	1.32	0.50	3.02	1.24		
上司の前(中英両言語)	76.6	21.9	1.5	1.44	0.57	2.90	1.14		
大学のクラブに参加するとき	74.6	24.6	0.7	1.30	0.53	2.87	1.23		
香港企業に勤めるとき(多言語使用)	65.0	34.4	0.7	1.49	0.67	2.80	1.11		
香港の親友の前	64.4	34.1	1.5	1.44	0.64	3.06	1.25		
旧正月で初めて会う異性(多言語可)	62.3	33.9	3.6	1.54	0.66	2.57	1.14		
3 日常生活									
大学, 職場外のクラブに参加	54.7	44.6	0.7	1.41	0.59	2.96	1.17		
大学に入学するとき	44.2	55.1	0.7	1.33	0.61	2.76	1.22		
大百貨店で配達を注文するとき	31.9	66.6	1.4	1.54	0.72	2.99	1.20		
パートの仕事に応募するとき	26.1	72.4	1.4	1.61	0.78	3.01	1.15		
アパート, 家を探すとき	21.2	77.4	1.5	1.70	0.81	3.01	1.16		
4 外国人との場面									
英語も中国語も話さない外国人と	81.9	15.9	2.2	1.65	0.80	2.91	1.27		
日系企業に勤めるとき	65.0	33.6	1.5	1.59	0.71	2.94	1.21		
外国のホテルに泊まる時	50.4	47.4	2.2	1.55	0.73	2.98	1.18		
5 親族場面									
父の前で	23.9	71.7	2.2	2.28	1.17	2.78	1.28		
親戚の集まり	30.0	70.3	0.7	2.23	1.15	2.83	1.29		
6 北京語を話す人との場面									
北京語を話せる日本人と	34.8	26.0	39.1	2.04	0.99	2.16	0.98		
北京から来た初対面の中国人	21.0	43.5	35.5	2.44	1.05	1.86	0.82		
大陸の友人と	24.3	48.5	27.2	2.22	0.93	1.95	0.92		
中国系企業に勤めるとき	36.2	55.8	8.0	2.00	0.84	2.20	0.96		
大陸から来た友人と香港の友人が一緒	50.0	44.2	5.8	1.94	0.85	2.36	1.05		

2 名前の使い方のタイプの分類

表2は、「使い分けタイプ」を優勢な名前によって5つに分類したものである。英語名を20回以上使う「英語名タイプ」は女性に多く、広東名を20回以上使う「広東名タイプ」は男性に多い。英語名と広東名を使い分け、さらに北京名を使い分

けている人々を二つに分け、北京名を3つの場面で名乗る「北京名タイプ」、北京名を2回以下の場面で名乗る「混合タイプ」とした。

表2 名前の使い分けタイプ

	人数(%)	男(人)	女(人)
英語名タイプ	14 (10.1)	5	9
英・広の2混合	48 (34.8)	24	24
広東名タイプ	9 (6.5)	7	2
北京名3回以上の英・広・北3混合 (北京名タイプ)	32 (23.2)	10	21
北京名2回以下の英・広・北3混合 (混合タイプ)	35 (25.4)	11	24

表3は、移民経験有無と使い分け領域数から、「背景タイプ」を6分類したものである。移民経験者は男女とも3種類または2種類の名前を使い分ける人が多く(以下, 3種混合, 2種混合), 英語名か広東名を20回以上一貫して使用する人がいない。逆に、香港生まれの人だけに、広東名あるいは英語名をほぼ一貫して使うタイプがみられる。もちろん香港生まれの人にも、3種混合, 2種混合は多く見られる。

表3 名前の背景タイプ

	人数(%)	男(人)	女(人)
移民 英・広・北の3混合	11 (8.0)	5	6
移民 英・広のみ2混合	7 (5.2)	4	3
香港生 英・広・北の3混合	55 (41.0)	16	39
香港生 英・広のみ2混合	40 (29.9)	20	20
香港生 広東名の一貫	9 (6.7)	7	2
香港生 英語名の一貫	12 (9.0)	5	7
$\chi^2(5)$		10.20	ns

3 英語名, 北京名への抵抗感

25の場面で、英語名, 北京名を使うときの抵抗感の平均は、表1の右二つの項目である。場面ごとの英語名使用比率と英語名への抵抗感の平均は負に相関し($r = -0.745, p < 0.0001$), 北京名使用比率と北京名への抵抗感の平均は負に相関する($r = -0.842, p < 0.0001$)。つまり、英語名も北京名も人々が抵抗感を感じるような場面では用いられにくい。

「英語名への抵抗感」は、全体的に低いが、親族場面と北京語を話す人の場面では、やや高い。

「北京名への抵抗感」は、一般場面、親族場面などでは全般的に高い傾向にあり、北京語を話す大陸人との場面では下がる。

4 抵抗感の尺度化

英語名への抵抗感、平均値が低く、平均から標準偏差をひいた値が1以下になる項目が多く出

た。そこで、25項目のうち11項目を除外し、残りの14項目の因子を行うことにした。

主因子法から4因子構造を想定し、バリマックス回転で以下のような4因子をとりだした。第1因子を「大陸中国人場面での英語名抵抗」、第2因子を「生活手続き場面での英語名抵抗」、第3因子を「親族場面での英語名抵抗」、第4因子を「一般場面の英語名抵抗」と名づけた。これら4つで、分散の69.9%を説明できる。

一方で北京名への抵抗感は、25項目の因子分析から一因子構造と考えられた。一因子で分散の63.3%を説明できる。

表4 英語名抵抗感の因子分析

	因子1	因子2	因子3	因子4
	大陸人場面 英名抵抗	生活場面 英名抵抗	親族場面 英名抵抗	一般場面 英名抵抗
北京から来た初対面の中国人	0.860	0.148	0.137	0.061
大陸の友人と	0.736	0.106	0.097	0.256
大陸から来た友人と香港の友人が一緒	0.684	0.133	0.140	0.235
北京語を話せる日本人と	0.574	0.274	0.234	0.379
中国系企業に勤めるとき	0.560	0.217	0.051	0.387
パートの仕事に応募するとき	0.187	0.917	0.188	0.139
アパート、家を探すとき	0.246	0.847	0.151	0.227
大百貨店で配達を注文するとき	0.143	0.757	0.073	0.231
外国のホテルに泊まる時	0.135	0.726	0.196	0.272
父の前で	0.165	0.177	1.079	0.062
親戚の集まり	0.193	0.224	0.788	0.065
旧正月で初めて会う異性（多言語可）	0.329	0.250	-0.017	0.683
英語も中国語も話さない外国人と	0.233	0.177	0.067	0.611
日系企業で勤めるとき	0.204	0.412	0.110	0.598
説明分散	6.12	1.60	1.50	0.57
説明率	0.437	0.114	0.107	0.041

5 使い分けタイプと抵抗感変数

英語名抵抗の各因子スコアと北京名抵抗（合計値）について、「名前使い分けタイプ（5群）」と「背景タイプ（6群）」の関連を見ると、タイプによってこれらの変数に大きな差が出る。表5は、タイプ別の抵抗感因子スコアのF値の一覧表である。これを順に見て行く。

1) 名前使い分けタイプと英語名への抵抗感

表6には「使い分けタイプ」で抵抗感に差が見られた2つを示す。「大陸人場面での英語名抵抗感」は、北京名タイプと混合タイプで高く、英語

名タイプで低い（ $F(4, 133)=3.25^*$ ）。「多用6場面北京名抵抗」については後述する。

表7には「背景タイプ」によって英語名抵抗に差が出たものをあげる。「生活手続き場面での英語名への抵抗感」は、英語名一貫タイプと香港生まれ混合タイプで有意に低い（ $F(5, 129)=2.72^*$ ）。

筆者のインタビューによると「生活手続き場面では、書類に漢字で書くことも多く、またローマ字で書くとしても、英語名には同姓同名が多いため、混乱を防ぐために広東名を付記する」という。そのような場面でも英語名を使うということは、英語名の意味付けが、本名に近いものがあることを示していよう。

「父・親族の前での英語名への抵抗感」は、英語名一貫タイプで低く、香港生まれの英・広・北3種混合タイプでも低い（ $F(5, 129)=2.59^*$ ）。

表5 各場面の英語名、北京名抵抗感の因子スコアと各タイプの関連、F値一覧

F値	名前使い分け (5群)	背景タイプ (6群)	香港人／中国人 (4群)
大陸人場面英語名抵抗	3.25*	1.99 [△]	0.39
生活場面	1.94	2.72*	2.50 [△]
親族場面	2.34 [△]	2.59*	0.15
一般場面	1.32	2.19 [△]	1.35
全場面北京名抵抗合計	0.73	0.11	1.33
多用6場面北京名抵抗	2.89*	1.48	0.38

** $P<0.01$ * $P<0.05$ [△] <0.10

2) 北京名への抵抗感

ここで、北京名を比較的用いやすい場面6つにおける北京名使用人数を見てみよう。その場面とは、北京語を話せる日本人と（54人）、北京から来た初対面の中国人（49人）、大陸から来た友人と（37人）、中国系企業に入るとき（11人）、旧正月で初めて会う異性（多言語可）（5人）、大陸から来た友人と香港の友人が一緒（8人）のようになる。

「名前使い分けタイプ」によって「多用6場面での北京名抵抗の合計」が有意に違っている。表6に示すように、北京名タイプと混合タイプでは低い（ $F(4, 133)=2.89^*$ ）。

表6 使い分けタイプ（5群）と抵抗因子スコア、抵抗感合計の平均値、標準偏差

	例数	大陸人場面英語抵抗		多用6場面北京名抵抗	
		平均	S.D.	平均	S.D.
英語名タイプ	14	-0.66	0.56	15.4	5.5
英・広の2混合	48	-0.12	0.84	13.5	4.9
広東名タイプ	9	0.03	0.43	14.9	7.4
北京名3回以上の英・広・北3種混合（北京名タイプ）	32	0.31	1.13	11.1	3.2
北京名2回以下の英・広・北3種混合（混合タイプ）	35	0.14	0.92	12.9	3.7
F (4,133) 値		3.25*		2.89*	

表7 背景タイプ(6群)と各英語名抵抗因子スコア

		大衆人場面英名		生活手続き場面英名		一般場面英名		一般場面英名		
		例数	協同値	S.d	協同値	S.d	協同値	S.d	協同値	S.d
移民	英・広・のみ3種混	11	0.27	1.38	-0.20	0.95	0.17	1.12	0.33	1.35
移民	英・広のみ2種混合	7	-0.13	0.85	0.92	2.15	1.22	1.63	-0.68	1.31
香港生	英・広・北の3種混合	56	0.21	0.95	-0.05	0.90	-0.16	1.37	-0.08	0.72
香港生	英・広のみ2種混合	40	-0.16	0.82	-0.08	0.78	0.21	1.36	0.04	0.80
香港生	広東名のみ一貫	9	0.28	0.43	0.72	0.97	0.10	0.92	0.54	0.57
香港生	英語名のみ一貫	12	-0.55	0.52	-0.25	0.51	-0.79	0.70	-0.06	0.60
F(5,129)値				1.99 ^a	2.72 [*]		2.59 [*]		2.19 ^a	

表8では「背景タイプ」から北京名使用回数、北京名抵抗を見たものである。「多用6場面での北京名使用回数」は、移民の英・広・北の3種混合タイプ、および香港生まれの英・広・北の3種混合タイプにおいては有意に高く、2~3回用いている。一方で、この人達は、北京名への抵抗感が有意に低いわけではない。移民及び香港生まれの英・広・北3種混合タイプの人々は、抵抗感の如何にかかわらず状況によって相手に合わせる状況対応性があると言えまいか。

表8 背景タイプ(6群)と北京名使用回数(6場面)と北京名抵抗合計値

		北京名回数(多用6場面)		北京名抵抗(多用6場面)		北京名抵抗合計値	
移民	英・広・北の3種混合	2.5	1.6	11.5	3.3	64.9	25.4
移民	英・広のみ2種混合	0.0	0.0	12.1	2.5	68.9	14.7
香港生	英・広・北の3種混合	2.4	1.2	12.2	3.6	69.2	21.8
香港生	英・広のみ2種混合	0.1	0.2	13.7	5.2	69.6	24.5
香港生	広東名の一貫	0.3	0.7	14.9	7.4	68.3	32.8
香港生	英語名の一貫	0.1	0.3	14.5	3.8	72.2	22.4
F値		(5,127) 40.9***		(5,129) 1.48n.s.		(5,121) 0.11n.s.	

B) 香港人/中国人アイデンティティと名前の使い分け

1 アイデンティティと使い分け、背景タイプ

香港人/中国人アイデンティティは、香港人、香港人第一・中国人第二、中国人第一・香港人第二の4つに分類した。

「名前使い分けタイプ(5群)」と香港人/中国人アイデンティティの間には、関連は見られない($\chi^2(12)=9.17$ n.s.)。

「背景タイプ(6群)」と「香港人/中国人アイデンティティ」の関係をみると、統計的には有意ではない($\chi^2(15)=21.5$ n.s.)が、傾向としては北京名を使わないタイプ(4つの群)に香港人アイデンティティ、香港第一の人が多い。

表9に示したのは、「背景タイプ(3群にまとめたもの)」との関連である。移民群に中国人アイデンティティが高く、香港生まれ一貫群の人に香港人アイデンティティが高い。香港生まれ混合群では、「香港人」でも「中国人」でもあるという複数アイデンティティがより多く見られる($\chi^2(6)=15.1^*$)。このように、地域アイデンティティ

イは名前の使い分けに関連している。

2 香港人/中国人アイデンティティと名前の抵抗感

表9 背景タイプ(3群)と香港人/中国人アイデンティティ

	香港人	香港第一	中国第一	中国人
移民 混合群	4	4	3	7
香港生まれ混合群	40	26	19	9
香港生まれ一貫群	13	3	3	2
合計 人(%)	57(42.9)	33(24.8)	25(18.8)	18(13.5)
$\chi^2(6)$	15.1 [*]			

1) 英語名抵抗感

表10は、香港人/中国人アイデンティティといくつかの変数との関係を見たものである。「生活手続き場面での英語名への抵抗感」は、中国人アイデンティティが強い人ほど強く、香港人である意識が少しでもある人(3つの群)では低い傾向が見られる($F(3,132)=2.50^a$)。

ちなみに、生活手続き場面(4場面)での英語名の回数は、他よりも広東名(例えば、Andy Lauのことを、Lau Tak WaまたはTak Wa Lauと読む場合)が増え、アパートを探すときは106名、バイトを探すときは100名、デパートの配送の時は92名、外国の旅館に泊まるときは65名にのぼる。しかし、これら4場面で英語名を多用することと香港人アイデンティティとは必ずしも関係がない。

表10 香港人/中国人アイデンティティと、英語名抵抗因子スコア

	生活手続き場面		一般場面		生活手続き場面	
	英語名抵抗	英語名回数	英語名抵抗	英語名回数	英語名抵抗	英語名回数
香港人	-0.05	0.93	-0.03	0.67	1.09	1.27
香港第一	-0.09	0.77	0.20	0.95	1.28	1.37
中国第一	-0.17	0.79	-0.21	0.89	1.63	1.12
中国人	0.57	1.47	0.13	1.00	1.28	1.49
F(3,132)=2.50 ^a			1.35n.s.		F(3,129)=1.06n.s.	

2) 北京名抵抗感

香港人/中国人アイデンティティと、北京名抵抗については、有意な関係は出ていない。表11ではこれらを表示したが、多用6場面での北京名使用回数の平均は、中国人アイデンティティがあるからといって多くない。多用6場面での北京名抵抗感合計値は、香港人/中国人アイデンティティとは関係がない。

表11 香港人/中国人アイデンティティと北京名頻度(多用6場面合計)北京抵抗(多用6場面合計)

	6場面北京名使用頻度		全場面北京名抵抗合計		6場面抵抗合計	
	平均	S.D.	平均	S.D.	平均	S.D.
香港人	1.16	1.49	73.6	22.8	13.4	4.44
香港第一	1.25	1.30	66.4	22.3	12.3	4.08
中国第一	1.33	1.57	68.4	24.0	13.2	5.76
中国人	1.11	1.71	62.2	24.9	12.9	4.66
F(3,130)=0.12n.s.			F(3,125)=1.33 n.s.		F(3,132)=0.38n.s.	

C) 文化、接触、教育要因と名前の使い分け

名前の使い分けは、日常的文化経験や接触度が影響しているのではないかな。

1 文化経験

1) 文化経験の尺度化

表12のように、中国的な日常的文化経験を問う4項目に2因子、表13のように、西欧的日常的文化経験を問う4項目に2因子が確認された。

中国文化度の第1因子を「道・仏教」、第2因子を「中国日常習慣（粥、昼寝）」と命名した。二つの因子で、分散の69%を説明できる。

表12 中国文化度（主成分分析）

	1 道・仏教	2 中国日常習慣
仏教寺院参拝	0.86	0.02
道教寺院参拝	0.86	-0.08
午睡の習慣	-0.03	0.80
中国第の朝食	-0.02	0.79
説明分散（固有値）	1.51	1.23
説明率	0.38	0.31

西欧文化度の第1因子を「英国食文化（トースト、アフタヌーンティー）」、第2因子を「キリスト教文化」と命名した。二つの因子で、分散の64%を説明できる。

表13 西欧文化度（主成分分析）

	1 英国食文化	2 キリスト教文化
午茶（アフタヌーンティー）	0.82	0.01
トースト	0.80	0.08
キリスト教礼拝	-0.02	0.80
キリスト教葬儀	0.10	0.77
説明分散（固有値）	1.41	1.15
説明率	0.35	0.29

2) 中国文化度、西欧文化度と名前使い分け、アイデンティティ

文化の4つの因子と、名前使い分け、背景タイプ、アイデンティティ、男女差の関連の一覧表を、表14にあげる。

(1) 中国文化度

「道・仏教」、「中国日常習慣」ともに、名前の使い分け、背景タイプにもアイデンティティとは関係していない。

表14 中国、欧米文化度と諸タイプ F値一覧

F 値	使い分け	背景タイプ	香港／中国	男女
道・仏教	1.83	1.13	0.20	1.67
中国日常習慣	0.47	0.49	0.31	3.25△
英国食文化	0.30	1.98△	1.21	0.11
キリスト教文化	1.51	1.23	1.11	4.24*
男性、女性	χ^2 値	(4) 8.59△	(5) 9.50△	7.77△

(2) 西欧文化度

まず表15には、「背景タイプ」との関連を示した。「英国食文化」スコアは、香港生まれ英・広2混合群、香港生まれ英・広・北3種混合群、英語名一貫群の人に高い傾向にある（ $F(5,129)=1.98^\Delta$ ）。

表15 英国食生活、キリスト教文化、男女と背景タイプ（6群）

		英国食文化因子		キリスト教文化		男	女
		平均値	S.d	平均値	S.d		
移民	英・広・北の3混合	-0.29	0.70	-0.13	0.70	5	6
移民	英・広のみ2混合	-0.96	0.86	0.07	1.13	4	3
香港生	英・広・北の3混合	0.08	1.00	0.05	0.96	17	39
香港生	英・広のみ2混合	0.16	1.08	-0.04	1.03	20	20
香港生	広東名の一貫	-0.29	0.73	-0.71	0.58	7	2
香港生	英語名の一貫	0.08	1.00	0.26	1.09	5	7
		F (5,129)		F (5,129)		χ^2 (5)	
		=1.98△		=1.23n.s.		=9.5△	

表16には、文化の4因子と、英語名抵抗感、北京名抵抗合計値の関連を示した。

「英国食文化」は英語名抵抗感との関連はないが、英国食文化の高い人は、北京名抵抗合計値が有意に高い（ $r=0.18^*$ ）。

「キリスト教文化」は、「使い分けタイプ」「背景タイプ」とは有意ではないが、それぞれ、広東名タイプ、広東名一貫タイプの人々が低くなる傾向を示す。

表16 中国、欧米文化度と因子スコア、変数F値、r値一覧

r 値	大陸英名抵抗	生活英名抵抗	親族英名抵抗	一般英名抵抗	北京名抵抗計
道・仏教	0.01	0.02	0.02	-0.02	-0.03
中国日常習慣	0.09	0.09	0.02	0.14	-0.03
英国食文化	0.04	-0.15	0.00	-0.07	0.18*
キリスト教	0.06	-0.11	-0.15△	-0.17△	-0.17△
男性女性	F 値	0.07 n.s.	5.63*	0.84 n.s.	1.38 n.s.
				0.04 n.s.	

表17には、香港／中国人アイデンティティとの関連を示した。

「キリスト教文化」は香港／中国人アイデンティティとも有意な関連は示さないが、中国人アイデンティティの人ほどキリスト教文化と接している傾向が見られる。

また、表15に示すように、「キリスト教文化」が高い人は、親族場面の英語名への抵抗感が低く（ $r=-0.15^\Delta$ ）、一般場面の英語名への抵抗感が低く（ $r=-0.17^\Delta$ ）、北京名への抵抗感合計値が減る傾向が見られる（ $r=-0.17^\Delta$ ）。このように、西欧文化度は、名前の使い分け現象に関連している。キリスト教文化に近い人は特に中国人を広い視点から相対化して見ることに慣れているのかも知れない。

表17 香港人／中国人アイデンティティと男女(人)、英国食文化、キリスト教文化

	例数	男	女	英国食文化	キリスト教文化		
香港人	58 (42.6)	21	37	0.15	1.05	-0.07	1.06
香港第一	33 (24.3)	14	19	-0.17	0.97	-0.16	1.02
中国第一	27 (19.8)	10	17	-0.04	0.85	0.14	0.83
中国人	18 (13.3)	13	5	-0.27	1.03	0.31	1.01
		$\chi^2(3)$ =7.77 ^a		F(3,132) =1.21n.s.		F(3,132) =1.11n.s.	

2 男女差

1) 男女差と使い分け

男女差をここでとり上げる。名前の名乗り方は、男女による違いが顕著にあり、表18の通り、女性は「生活手続き場面」で英語名抵抗感が少なく ($F(1,136) = 5.63^*$)、使い分け領域も3領域に渡る人が多い ($\chi^2(2) = 6.13^*$)。女性は男性よりも、名前を場面によって使い分けている。

表15に示したように、「使い分けタイプ」「背景タイプ」とも、広東名一貫タイプは男子に多く、英語名一貫タイプと混合タイプは女子に多い傾向がある ($\chi^2(4) = 8.59^a$, $\chi^2(5) = 9.50^a$)。

2) 男女と香港人／中国人アイデンティティ

表17に示したように、男子の方に中国人アイデンティティがより多く見られ、香港人アイデンティティは女性と比して少ない傾向がある ($\chi^2(3) = 7.77^a$)。

3 国籍、移民経験

英国海外パスポート (British National Overseas) を持つ人は123人 (88.5%) で、持たない人は16人 (11.5%) である。名前の使い分けは、BNOの有無には関係しない。ある香港人留学生は、「中国の香港特区戸照 (SAR) とBNOではほとんど変わらず、ともに今まで通り外国に行くことが出来る」とする。しかし、SARをとっている人は、返還後半年時点ではまだ少なく、9名に過ぎない。

名前の使い分けは移民経験の有無に関係する。すでに表3の「背景タイプ」で示したように、香港に移民してきた人は、本調査では全員が混合タイプである ($\chi^2(8) = 15.6^*$)。

表18 男女別生活英名抵抗・使い分け領域

	人	生活英名抵抗		使い分け領域		
		平均値	S.d	1種	2種	3種
男	58	0.23	1.01	5	30	22
女	78	-0.16	0.63	2	32	46
		F(1,136) = 5.63*		$\chi^2(2) = 6.13^*$		

4 大陸中国人、欧米人との接触度

欧米人と接する人ほど、大陸人場面での英語名抵抗が低い傾向があり ($r = -0.14^a$)、親族場面での英語名抵抗が低い ($r = -0.18^*$)。このように、接触度は名前の使い分けに関係する。

表19 大陸中国人との接触度、欧米人との接触度と使い分け、アイデンティティ、抵抗感 F値 r 値一覧

	使い分け	背景タイプ	香港/中国	r 値大陸英抵	親族英抵
大陸中国人との接触	1.97	1.42	1.06	-0.02	0.07
欧米人との接触	0.27	0.42	1.36	-0.14 ^a	-0.18*

5 英語名の付け方と学校教育

表20のように、英語名をつけた時期は、中学生の時が一番多く、次に12歳以前が多い。付けた人は、自分が一番多く、次に父母、その他 (先生など) となっている。通っていた小学校のタイプは、中文小学 (広東語で教育をする小学校) が一番多く、次が英文小学 (一部を英語で教育する小学校) である。国際学校は、外国人、帰国者などに限られる。

これらの教育要因 (少数の項を除外して計算した) が、名前の使い分けや抵抗感にどのような影響があるのかを一覧表にしたのが表21である。

表20 英語名の付け方と学校教育

英語名をいつ付けたか			誰が付けたか			通っていた小学校のタイプ		
	人	%		人	%		人	%
生まれたとき	11	7.9	神父, 牧師	1	0.7	英文小学	34	24.5
12歳以前	37	26.6	父母	26	18.8	中文小学	96	69.0
中学	65	46.8	自分	78	56.5	普通話小学	0	0
高校	9	6.5	友達	10	7.2	国際学校	3	2.2
大学	9	6.5	その他	20	14.5	複数記入	6	4.3
会社	2	1.4	なし	3	2.2			
今までなし	3	2.2						
現在なし	3	2.2						

表21 名前の付け方、学校と名前タイプ χ^2 値、F 値一覧

χ^2 値	使い分け	背景タイプ	香港/中国	F 値大陸英抵	生活英抵	親族英抵	北京名抵抗
いつ付けたか	(16)11.0	(20)17.2	(12)13.4	1.41	2.53*	5.12***	0.85
誰が付けたか	(12)8.2	(15)22.6 ^a	(9) 7.9	0.94	0.56	4.22**	0.53
小学校タイプ	(8)6.1	(10)11.2	(6)3.89	0.08	0.30	0.76	2.38 ^a

() 内は自由度

いつ付けたかは、生活手続き場面の英語名抵抗、親族場面の英語名抵抗に強く関係した。これを表22に示す。生まれたときに付けられた人は、これらの抵抗感がきわめて低かった ($F(4,126) = 2.53^*$, $F(4,126) = 5.12^{***}$)。

誰が付けたかは背景タイプに関連し、自分で付けた人の中に英語名一貫タイプが多い。親が付けた人は、ほとんど香港人2種混合、3種混合タイプとなっている。移民経験者は、自分で付けることが多い ($\chi^2(15) = 22.6\Delta$)。また、親が付けた人は、友達などが付けた人よりも親族場面での英語名抵抗がきわめて低い ($F(3,130) = 4.22^{**}$)。

D) 自由意志、知識、利益などの要因

1 中国の歴史、地理知識

1) 歴史、地理知識と使い分けタイプ

名前の名乗り方の一貫性は、中国の歴史、地理の知識と関係するのだろうか。

表22 名前の付け方と抵抗感

いつ	生活英抵		親族英抵		誰が	親族英抵	
生まれたとき	-0.46	0.38	-1.33	0.89	父母	-0.80	1.04
12歳以前	-0.02	0.84	-0.24	0.87	自分	0.13	1.38
中学	-0.12	0.97	0.15	1.37	友達	0.40	1.40
高校	0.77	0.78	0.87	1.60	その他	0.32	1.25
大学	0.12	1.28	0.59	1.85			
F (4,126) 値	2.53*		5.12***			(3,130)4.22**	

表23 歴史度、地理度と使い分け、アイデンティティ、抵抗感 F 値 r 値一覧

F 値	使い分け 背景タイプ 香港／中国			r 値	大陸英抵 生活英抵 親族英抵		
歴史度	0.52	1.50	3.94**		0.19*	-0.00	0.16 [△]
地理度	0.39	0.74	0.47		-0.02	0.16 [△]	-0.04

表24 歴史度、地理度と英語名抵抗 (平均、標準偏差)

	大陸人英名抵抗 (4項)				親族英名抵抗 (2項)				生活英名抵抗			
歴史度上位	11.4	4.0	5.2	2.4					地理度上位	6.0	2.1	
中位	10.1	3.6	4.1	2.1					中位	3.4	2.7	
下位	9.9	3.6	3.7	1.9					下位	7.8	4.3	
F (2,135) 値	2.23 n.s.				4.89**				2.31 n.s.			

表23および24に示すように、歴史の知識が高い人 (明朝の開祖、アヘン戦争終結年) は、「父・親族の前での英語名への抵抗感」が高い ($F(2,135) = 4.89^{**}$)。また、歴史知識の高い人ほど、大陸人場面での英語名抵抗が高くなる ($r = 0.19^*$)。

中国の地理の知識が高い人は、生活場面での英語名抵抗が高い傾向がある ($r = 0.16^{\Delta}$)。

2) 歴史、地理知識と香港人／中国人アイデンテ

イティ

表25のように、中国人アイデンティティのある人ほど、歴史知識が高い ($F(3,132) = 3.94^{**}$)。アイデンティティが、歴史知識を押し上げ、この知識はおそらく中国の歴史の一部として香港を見る視点を与え、そして大陸中国人の前や、父、親族の前での英語名抵抗感を押し上げると考えることが出来る。このように、歴史、地理の知識は、名前の使い分けに関係する。

ちなみに、香港人留学生によると、返還前からアヘン戦争は侵略戦争として教えられていたが、イギリスへの恨みは誰も持っていないという。なお、アヘン戦争終結年の正答率は45%であり、知識が身につけているとは言い難い。

表25 歴史度、地理度と香港／中国人アイデンティティ

	歴史度		地理度	
	平均値	S.d	平均値	S.d
香港人	1.31	0.65	0.83	0.65
香港第一	0.97	0.81	0.46	0.56
中国第一	1.52	0.64	0.67	0.56
中国人	1.50	0.62	0.83	0.71
F (3,132) 値	3.94**		0.47n.s.	

2 北京語学習意欲、カナダ移民希望

表26に、それぞれの関連の一覧を示す。

1) 北京語学習意欲

北京語学習意欲を示すものは、将来の利益を先取りしているとみて、利益の項目とした。

移民の英・広・北3種混合タイプと、香港生まれの英・広・北3種混合タイプの人々に、学習意欲が高い傾向がある ($F(5,129) = 1.94^{\Delta}$)。

また、北京語学習意欲のある人は、北京名への抵抗感合計値が低い ($r = -0.22^{**}$)。このように、利益、意志の要因が、名前の使い分けに影響を与えている。

表26 北京語学習、カナダ移民、同一性地位と使い分け、香港／中国人、抵抗感 F 値 r 値一覧

F 値	使い分け	背景タイプ	香港／中国	r 値	大陸英抵	生活英抵	親族英抵	一貫英抵	北抵
北京語	1.87	1.94 [△]	1.46		0.10	0.08	-0.02	-0.10	-0.22**
カナダ	0.90	0.83	4.52**		0.00	-0.24**	0.07	-0.03	0.09
同一性(確信)	1.55	1.70	0.98		-0.16 [△]	-0.18*	0.03	-0.08	-0.07
同一性(未来)	0.89	1.32	0.46		-0.07	-0.11	-0.19*	-0.11	-0.06

表27 背景タイプと意志、知識（平均、標準偏差）

	北京語学習意欲		カナダ志向		歴史知識		現在への投入	
移民 英・広・北の3混合	4.6	0.7	3.1	1.1	1.5	0.7	17.2	3.3
移民 英・広のみ2混合	3.7	1.6	2.4	1.6	1.9	0.4	17.0	2.2
香港生英・広・北の3混合	4.4	0.7	2.8	1.1	1.3	0.7	17.4	3.0
香港生英・広のみ2混合	4.3	0.8	2.5	0.9	1.3	0.6	19.1	3.8
香港生広東名の一貫	4.1	0.3	2.8	1.2	1.2	0.8	16.6	5.3
香港生英語名の一貫	3.9	1.0	2.8	1.6	1.0	0.7	18.2	3.2
F (5,129) 値	1.94 [△]		0.83n.s.		1.50n.s.		1.70 n.s.	

2) カナダ移民希望

移民希望も利益の要素として、意志の項目とした。カナダ移民希望者は、生活場面での英語名抵抗が低く ($r=-0.24^{**}$)、また表28に示すように、香港人アイデンティティの持ち主であることが多い ($F(3,132)=4.52^{**}$)。このように、意志の要因は名前の使い分けにも意味を持つ。ちなみに女子の方が、カナダ移住志向が強い ($F(1,135)=8.06^{**}$)。

表28 香港人/中国人アイデンティティと意志、知識（平均、標準偏差）

	カナダ移民		北京語学習		歴史知識		地理知識		現在への投入	
香港人	3.1	1.0	4.1	1.0	1.3	0.7	0.8	0.7	17.8	3.9
香港第一	2.6	1.2	4.5	0.6	1.0	0.8	0.8	0.6	18.0	2.9
中国第一	2.2	1.2	4.3	0.7	1.5	0.6	0.8	0.6	18.7	3.5
中国人	2.4	1.1	4.3	0.8	1.5	0.6	0.8	0.7	16.8	3.1
F (3,132)	4.52**		1.46 n.s.		3.94**		0.47 n.s.		0.98 n.s.	

3 自我同一性

加藤 (1983) が作成した同一性地位尺度の中文版、英文版を作成して、その3要素のうちの二つについて検討する。

現在への投入の高い人は、生活手続き場面での英語名抵抗が低くなり ($r=-0.18^{*}$)、大陸人場面での英語名抵抗も低くなる傾向を示す。

未来への投入の高い人は、親族場面での英語名抵抗が低くなる ($r=0.19^{*}$)。このように、自我アイデンティティも、名前の使い分けに関連している。

表29 名前の使い分け背景タイプと同一性地位

	現在への投入（平均、標準偏差）
移民 英・広・北の3混合	17.2 3.3
移民 英・広のみ2混合	17.0 2.2
香港生 英・広・北の3混合	17.4 3.0
香港生 英・広のみ2混合	19.1 3.8
香港生 広東名の一貫	16.6 5.3
香港生 英語名の一貫	18.2 3.2
F 値	1.70 n.s.

考察

香港人アイデンティティ

日野 (1997) は、香港人というアイデンティティが成立したのは、1980年代であるとする。彼女は「飲茶請進」(1996) という大学生の短文集の質的分析を通して、香港人であり中国人であることの矛盾、中国に返還されることへの「無奈 (なんともしようがない)」の状況を明らかにした。実際、香港人は普段は広東語を話し、大学では英語を用い、一種の二重言語状況にある。民族的には、華人であり、香港人というアイデンティティは、大陸中国への返還を前にして成立した社会的なアイデンティティである。

香港の心理学者による「the Psychological Analysis of Transitional Hong Kong (PATH)」研究は、香港人アイデンティティと中国人アイデンティティについて注目し、社会的アイデンティティの4分法を採用した。1995年および1996年の中学生の調査によると、自分のことを「香港人」または「第一に香港人、第二に中国人」としたのは76%で、「中国人」または「第一に中国人、第二に香港人」としたのは24%である。香港人アイデンティティの強さとともに、中学生において大陸中国と距離をとる傾向が指摘された。1996年の成人の調査では、「香港人」または「第一に香港人、第二に中国人」とした人が68%、「中国人」または「第一に中国人、第二に香港人」とした人が約32%であった。これを見ると、本調査によるデータ (67%対33%) と、ほぼ同じ比率を示している。

英語名、広東名、北京名の使い分け現象

今回の香港での調査に見られるように、英語名は約9割の人に使われており、特に友人や欧米人の前では好んで使われる傾向がある。

そして、英語名で一貫させる人もいれば、広東名ではほぼ一貫させる人もいる。しかし、8割の人は、状況によって名前の音を使い分けていた。これを、状況対応性とすることができよう。

場面によっては、広東名、北京名が多くなる状況がある。筆者は、因子分析から4つの場面を分けた。

大陸中国人の前で北京名を使う人は、2-3割に上る。名前の混合タイプは、こうした状況によく対応する人々である。ある意味で配慮があると言える。この人たちが、抵抗感なく使っているかどうかは、明確ではない。

生活手続き場面では広東名にする人が7割近くになった。こうした場面でも、英語名を続けて使

う人々はいた。その要因としては、香港人アイデンティティ、英国食文化の高さ、女性であること、そして何よりも、自分の英語名が生まれたとき親に付けられていることなどが示された。利益の要因も関連している。カナダへの移民考える人々は、生活手続き場面でも英語名に抵抗がなかった。

親の前でも広東名にする人が7割に上る。父親、親族場面で英語名への抵抗感を押し上げるのは、中国の歴史知識である。

北京名を普段から使う人は、中国大陸出身者か、華僑出身者である。さらに、利益の要因が、名前の使い方に影響していた。北京語学習意欲が、北京名への抵抗を下げ、使用を促している。

言語と名前

ところで、名前の名乗り行動は、基本的にそのとき使っている言語が大きく関係する。ある香港人留学生によると、日本語で話しているときには日本読みで呼んでもらうのが自然であるという。筆者が日本語で話しているながら、その留学生に広東名で呼びかけたことを、おかしいとした。

在日朝鮮人のハングル名は、香港における名前の使い分けと共通性を持ちながらも、一貫性が重視され、エスニック・アイデンティティのシンボルとなっていることが特徴である。ハングル一貫群は日本語で話しているときもハングル名で呼びかけられることを望むだろう。これは、漢字文化と表音文化の違いとも関係しよう。なお、平ら(1995)の調査では、親が名前を付けたかどうかの質問(当然とみなしていた)や、父の前、親族の前での名前の使用についての質問は含まれていなかった。孝を重視する文化においては、父の前では名付けられた名前を使う傾向が見られると予想される。

プライド

孟文蕾(1998)は、「上海人も欧米崇拜病」において、欧米租界のあった上海では、「上海の中国人は中国人であるというだけで恥じ、自分を差別している集団に自分を同一化しようとした」とする。現在、上海人は中国の中で一番上位にあるというプライドが今あるとし、相手が誰であろうとまず上海語で話しかけ、普通話で返事をしてもらいさらに上海語で質問するという。

ここからは、欧米化し、近代化した地域へのプライドという要因がうかがえる。これが香港において関連があるかはここからは分らない。

今後の課題は、地域や集団に対するプライド、大陸と香港の違いの意識などに注目して英語名や現地音の用いられ方を検討することである。

謝辞

本研究の質問紙作成において貴重な協力をいただいた九州大学大学院留学生丁國榮(James Ding Kwok-wing)さん、福岡教育大学留学生方敏さん、Matthew Alan Parkさん、元福岡教育大学学生福井亜希子さん、調査にご協力いただいた香港大学助教趙志裕(Chiu Chi-yue)先生、Serena Yang先生、香港科技大学助教康瑩儀(Hong Ying-yi)先生、香港東急社員西山修一さんに心より御礼申し上げます。

参考文献

- Chi-yue Chiu, Ying-yi Hong Social Identification in Political Transition. In press International Journal of Intercultural Relations
- 長谷川寿一 文化心理学と進化心理学 柏木、北山、東編 1997, 76-84
- 日野みどり 香港人であることと中国人であること 香港の社会変動とアイデンティティ 瀬川編 香港社会の人類学 7章 風響社 1997
- 加藤厚 大学生における同一性の諸相とその構造 教育心理学研究, 1983, 31, 4, 292-302
- 柏木恵子, 北山忍, 東洋 文化心理学 理論と実証 東京大学出版会 1997
- 孟文蕾 上海も欧米崇拜病 愛知大学現代中国学会編 中国 21 4巻9月号 風媒社, 1998, 211-216
- 中村俊哉 名前についての多文化間関係学 東アジアの姓、英語名、関係名 福岡教育大学紀要 47号第4分冊 1998, 191-213
- 任榮哲 在日韓国人の名前の使い分け 朝鮮学報 第141輯 1991. 10 43-62
- Patterson, Orlando Context and Choice in Ethnic Allegiance: A Theoretical Framework and Caribbean Case Study in Glazer & Moynihan, Ethnicity: Theory and Experience, Harvard University Press, 1975, 305-349
- 沢田ゆかり 香港 植民地が生んだ多重言語社会の名称 松本、大岩川編 第三世界の姓名 明石書店 1994
- 平直樹, 川本ひとみ, 慎榮根, 中村俊哉 在日朝鮮人青年に見る民族的アイデンティティの状況によるシフトについて 教育心理学研究 第43巻第4号 1995, 380-337
- 山岸俊男 心と社会の均衡としての文化 柏木、北山、東編 1997 6章
- 山岸俊男 安心社会から信頼社会へ 日本型ス

テムのゆくえ 中公新書 1999
吉川雅之 「中文」と「広東語」 香港言語生活
への試論 (1) シニカ 1997, Jul, 96-103

付表 中文版および英語版の質問の一部

Q 9 閣下認為自己的身份是什麼

- 1 : 香港人 2 : 香港的中國人 3 : 中國的香港人
4 : 中國人 5 : 其他 ()

Q15 在下列情況、閣下是怎樣或想怎樣拼寫自己名字?

- A : 英文姓名 (例: 劉德華 → Andy Lau)
B : 英文順序 (例: 劉德華 → Tak Wa Lau)
C : 廣東話式 (例: 劉德華 → Lau Tak Wa)
D : 普通話式 (例: 劉德華 → Liu De Hua)

- | | |
|----------------------------|---------|
| a) 進大學或公司時 | A B C D |
| b) 進大學的興趣小組時 | A B C D |
| c) 在聖誕派對上初次遇到能談中文及英文的異性時 | A B C D |
| d) 在中國新年派對上初次遇到能談中文及英文的異性時 | A B C D |
| e) 和歐美系的好朋友一起時 | A B C D |
| f) 在大學或公司裏初次見面的歐美人前 | A B C D |
| g) 在大百貨公司等送貨時所登記的名字 | A B C D |
| h) 大學公司以外的體育或興趣小組入會時 | A B C D |
| i) 和大陸朋友一起時 | A B C D |
| j) 和香港的好朋友一起時 | A B C D |
| k) 與香港朋友及歐美朋友同席時 | A B C D |
| l) 與香港朋友及大陸朋友同席時 | A B C D |
| m) 在港資企業就職時 (中英文都能使用時) | A B C D |
| n) 在中資企業就職時 | A B C D |
| o) 在日資企業就職時 | A B C D |
| p) 在英資或美資企業就職時 | A B C D |
| q) 在懂中文及英文的老闆前 | A B C D |
| r) 曾見英文、中文都不懂的外國人時 | A B C D |
| s) 在外國旅館或酒店住宿時 | A B C D |
| t) 兼職工作報名時 | A B C D |
| u) 尋找住所時 | A B C D |
| v) 初次和從北京來的中國人見面時 | A B C D |
| w) 在能讀普通話的日本人前 | A B C D |
| x) 在和父親一起時 | A B C D |
| y) 和親人一起時 | A B C D |

Q9 What best describes your social identity?

1. Hong Kong 2. Firstly Hong Kong, Secondly Chinese
3. Firstly Chinese, Secondly Hong Kong 4. Chinese 5. Other()

Q12 In what manner are you using or intend to use your name?(Answer separately for each situation)

- A. Mainly English Name (ie. 劉德華 → Andy Lau)
B. Given name in English order (ie. 劉德華 → Takwa Lau)
C. Given name with Cantonese reading (ie. 劉德華 → Lau Takwa)
D. Given name with Mandarin reading (ie. 劉德華 → Liu De Hua)

- | | |
|---|---------|
| a) Upon admission to a university | A B C D |
| b) Join a university club | A B C D |
| c) At a Christmas party when first meet a member of the opposite sex | A B C D |
| d) At a Chinese New Year party when first meet a member of the opposite sex | A B C D |
| e) With a good, Western friend | A B C D |
| f) Meet a Westerner for the first time at university/work | A B C D |
| g) Request delivery from a big department store, etc. | A B C D |
| h) Join a club outside university/work | A B C D |
| i) Chinese person (Mandarin-speaking) | A B C D |
| j) When both a Western friend and Hong Kong friend are present | A B C D |
| k) When both a Chinese (Mandarin-speaking) and Hong Kong friend are present | A B C D |
| l) If work at a Hong Kong company, in which any language could be used | A B C D |
| m) Before your boss who speaks both Chinese and English | A B C D |
| n) If work at a Chinese company | A B C D |
| o) If work at a Japanese company | A B C D |
| p) If work at a British or US company | A B C D |
| q) Meet a foreigner who speaks neither Chinese nor English | A B C D |
| r) Stay in a hotel overseas | A B C D |
| s) Apply for a part-time job | A B C D |
| t) Look for a place to live (apartment, house) | A B C D |
| u) First meet a Chinese person from Peking | A B C D |
| v) With a Japanese person who can speak Mandarin | A B C D |
| w) With a Japanese person who can speak Mandarin | A B C D |
| x) With your father | A B C D |
| y) In a family gathering | A B C D |